

抱浄土のしおり 普賢寺寺報 季刊五号

平成二十六年秋のお彼号 九月二十日(ただ今、都合により不定期の寺報となっております。寺だより」とで二種類になつ

ております・宜しくお願ひします。

或る人に示されける詞

一。善導和尚の往生禮讃に、本願をひきていはく

若我成佛、十方衆生、稱我名號、下至十聲、若不生者、不取正覺。彼佛今現在世成佛、當知、本願重願不虛、衆生稱念必得往生。」(文)

この文を常に、口にも唱へ、心にも浮かぐ、眼にもあて、

彌陀の本願を決定成就して、極樂世界を莊嚴したて、御目を見まはして、わか(我が)名をとらぬる人やあると御らんし(御覧じ)、御み(耳)をかたふけて(傾け)、わか名(我が名)を稱する物(者)やあると、よるひる(夜昼)き(聞)こしめさるゝ也。されは一稱も一念も阿彌陀にしられまいらせずといふ事なし。されは攝取の光明はわか身をす(捨)て給ふ事なく、臨終の來迎はむなしき事なき也。

この文は四十八願のまなこ也、肝(きま)なり、神(たましい)也。四十八字にむすひ(結び)たる事は、このゆ(故)也。よくよく身をまきよ(浄)め、手をもあらひ(洗)ひて、す(数珠)をもと(取)り、袈裟をもか(掛)くべし。不淨の身に持佛堂(仏様を祀っている建物)へい(入)るべからず、

この世の主(な)んとをたにも、うやまひおそるゝ事にてあるに、まして無上世尊(この上なく世にも尊い方)の、もろもろ(諸々)の大菩薩にもうやまはれ(敬われ)給へるに、われら(我ら)身にかて(か)なめにもあたりまいらす(き)。三界の諸天もか(か)ぶ(頭)をかたふけ(傾け)給ふ、いかにはんやわれら(我ら)が身をや。(法然上人

いかてか なめにもあたりまいらす(き)

(いかでか)とどのようにしてか(並めにも)並び連なるようにも(当たり参らす(き)と)そのような方にお会いすることが出来るでしょうか。い、心から敬ひ申し上げるべきです」

今回は、関通上人のお言葉の一部を読みます。関通上人」という人は、江戸時代の有名で尊いお坊様です。

後の世のつとめ」関通上人。

の畜類に變る處あるまじくやと。

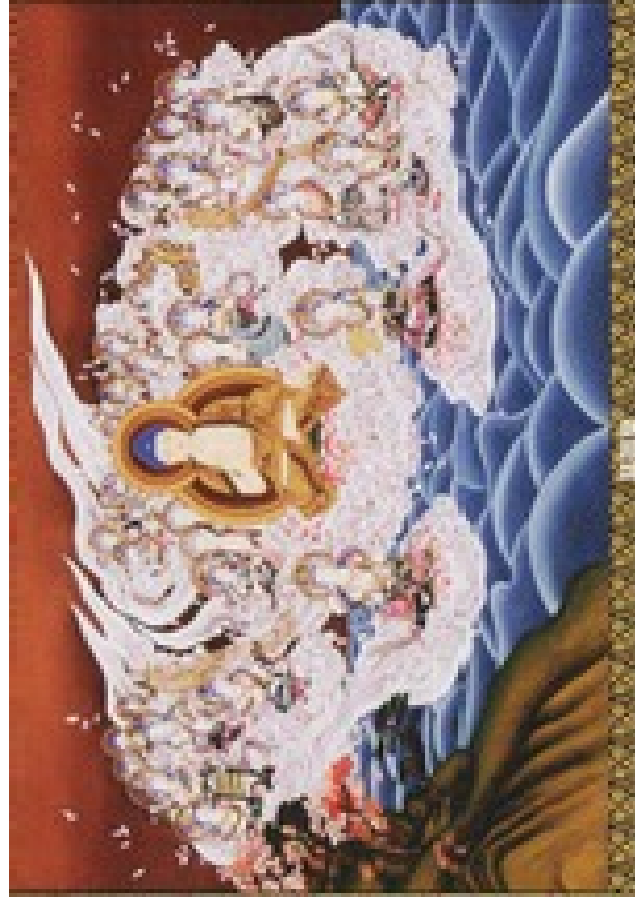
古人の曰く。人と生れたらん證にも、何にもして世を逃れんことこそあらまほしけれ。偏に貪る事を努めて、菩提に趨かざらんは萬

人間として生まれたということの証をたしかめ、かいあることと思ふにも、いかなるはかりごとをもして、世の困難を逃れようとする事こそ、

願わしいことです。ひとえに、目、耳、鼻、舌、体の感触の心地よさだけを貪り追求して、その他には楽しみ・幸福がないと勝手に決め込んで、悟りへの道に赴こうとしないのは、よろずの動物の類とどこが異なりますでしょうか。

誠に萬劫にも受け難き人身をうけ、億劫にも値ひ難き佛法にあふことを得たり。耳に佛の教誡をき、目に聖教をみて、頗る善惡の趣歸する處を知れり。

まことに、あり得ないほどの確率で



阿彌陀二十五菩薩來迎図

人間の身体を受けて、奇跡的にも遇いがたい仏陀の教え、道理にあうことが出来たのです。耳にみ仏の教え誠めを聞き、目に誰も明らかにしなかった真実を表した教えを見て、善悪の行為の結果がはなはだしく苦楽を分けた所に落ち着くという事を知りました。

實に生ある者、孰か死に歸せざらんや。縦ひ六七十の齡を過ぎ、八十路を越ゆるとも、誰か此の世に留まる人やはある。位高き人、富み榮ふる人、勢ひ盛なりし人も、命終りぬれば、骸を野に送り、山に埋みぬ。其魂は各々業にひかれて、何處にか迷ひ行けん。賤き人の、貧く悲きことのみにて、墓なく成りぬれば、冥きより冥きに入りつゝ、六の道に迷ひ廻る相状、奈なさばやとも、不覺こそ懐しけれ。

実に、生きていなければ、誰が死なないということがありましようか。喩え六七十の年齢を過ぎて、八十歳を超えても、誰がこの世に永遠に留まる人がいるのでしょうか。地位の高い人、財産が裕福で栄えている人、人気や権力など時の勢いの盛んな人などでも、命が終われば、遺体は地に送り、自然に埋まります。その魂はおのおの生前の業に牽かれて、何処に迷い往くのでしょうか。行い思いの賤しい人が、一生心貧しく悲しいことのみで、無益な生き方になってしまえば、誰にも知られない暗闇から暗闇に移りつつ、迷いの六つの生

き方に迷い廻る有様は、そうでないように、と思うものだけでも、み仏の教えを聞いて尚、何も気づかないことこそが、口惜しくて悲しい事であることよ。(筆者試訳)

仏教の話

◎先祖供養の話

はつきりと申し上げますが、お釈迦様は「先祖供養」を奨励しています。

「先祖供養」は、本来の仏陀の教えではない、という受け止め方がありますが、先祖に感謝し、供養する気持ちのある人は、品格のある人ですよ」というお釈迦様の言葉がある、と聞いています。聞いています」と書いたのは、この言葉に該当するお経の文章をまだ見つけられていないからですが、筋道を立てて考えても、そうだろうな、と導かれるからです。その「筋道」をご説明しようと思います。

私はそう多くのお経を読んでいる人間ではありません。しかし学生時代に触れたことのあるお経で、

『戸伽羅越六方礼経』

(略して「六方礼経」と云われます。「戸伽羅越」とは「シンガラー」というある青年の名前です)

というお経の文章に、「父母に孝養し、子には慈愛の気持ちで接しなさい」という意味の言葉があります。

このお経は、毎朝、東西南北上下の六つの方角に向かって礼拝をするという不思議に見える習慣事をしている資産家の青年にむかって説かれた

お経です。この青年は、世間知らずが極端なおぼつちやまだつたようで、父親を亡くしています。お釈迦様が六つの方角に礼拝をしている訳をお尋ねになると、青年は、「亡くなった私の父の遺言を忠実に守っているのです」と答えます。恐らく、大きな資産を相続したのはいいものの、父君の悩みの種が、息子が「世間知らず」で、きちんと遺産を管理し、正しく利用し、家業を正しく運営出来るか、とても心配だったようです。社会的な人間関係の心得を教え諭しても、なかなか理解し、行動に移せなかつた息子の性格をよく知っていた父親は、変わった遺言をのこします。「私が死んだら、東西南北上下の六つの方角に向かって毎朝礼拝をしてから一日を始めなさい」という不思議な遺言です。何故そうするかは云わなかつたのです。恐らく、云つたら「そんなの分かつていますよ」といういつもの調子で受け取り、深く考え、身につけることが出来ない事を見抜いていたようです。そこで、聡明な父親は、とにかく自分の周りの六つの方角に礼拝をなさい、という遺言を残したのです。もし、我が子に良い業があれば、巷で有名な「お釈迦様」に会う事ができて、その意味を残らず教え諭して下さるといふ幸運を得るだろう、と思つたからです。その青年は、父亡き後の心細い思いの中で、亡父にすがる気持ちでなりふりかまわず父が遺した意味不明の習慣を忠実に実行していました。そ

こに、果たせるかな、ある朝、六方に礼拝していたちようどその時に、朝の散歩(といつても、歩行瞑想をなさつていたと思います)をなさつていた仏陀釈尊の御目に止まつたのです。珍しい行動をしている青年を一目ご覧になって、釈尊は、「(亡父にたのまれたのでもないけれども恐らく訳を知つていたのでしよう)、ご縁を作る為に、あなたは、何をしていますのですか」と問いかけ、青年が前述のように「これこれの訳で、毎朝六つの方角に向かって礼拝をしています。」と答えると、

お釈迦様は、亡父が遺した自分の周囲の六つの方角を礼拝するという事の意義を自分の周囲の六つの社会的人間関係に繋げてお説きになりました。即ち、

東を父母に、

西を妻子に、

南を師(家業を中心とした専門知識を教えてください先生)に、

北を友人に当て、

上方は修行者(解脱を求めて修行する人)・バラモン(インドの祭司を職業とする階級の人々に、

下方は使用人に

配当して、それぞれ「このように思い」「このように分別し」「このように接しなさい」と、具体的な社会人としての生き方をお説きになつたのです。このようにすれば、資産を適切に守り、家業もきちんと出来、人生を誤ることがありませんよ。と、懇切丁寧にお説きになつたのです。このお経で、「東の父母」に対して、

具体的にはこのように説かれます。
『成功する生き方』(シガール教誡
経』の実践』(スリランカ上座仏教長老
アルボムツレ・スマナサーラ著)の
訳文を引きます)

一、両親に育てられたのだから、私
は両親の面倒をみます。

二、両親の仕事・義務などを私が継
ぎます。

三、両親の家柄を守ります。

四、両親の財産をきちんと管理しま
す。

五、それから両親が亡くなったら、
亡き人々のために供養・回向をしま
す。

この五つの事は、どれだけ出来るか、
という事は個人個人で違うでしょう
が、それが問題ではありません。生
まれてすぐ種々の事情で父母と別れ
ることになった孤児の子だったら、
実の両親に出来るはずがありません。
けれども、人は生まれたての赤ちゃ
んの時から、少なくとも一年以上は、
完全に誰かのお世話に(オムツ、お乳、
布団などなど)ならなければ、生き続
けることが出来ません。育ての親』
といわれる人のことです。親という
のは、育ての親』も入ります。今、
こうして人として生きられているの
は、必ず生後数十ヶ月、どなたかの
お世話をどのようであれ、受けてい
るはずです。

お釈迦様はこのことをご指摘になら
れます。(別のお経『父母恩重経』で)
又関連して申し上げれば、人生終わ
って死ぬ時にも、普通、人は誰かの
お世話になるはず。誰にも知ら

れず亡くなる、というのは、かなり
異例だと思います。仮にあとで誰か
に発見されたとしても(軽く言っ
てしまつて申し訳ありません)、この
人は誰だろうとなり、なんらかの
行為がされるはず。いずれにせ
よ、自分で自分の亡骸を葬ることは
出来ません。少なくともこれだけは
誰も否定できません。だから、私
は誰にも迷惑かけず、お世話したこ
とはあつても、お世話されることは
ありません』などと、言いたくなつ
ている時は、必ず心がすねていると
考えていいと思います。私がここま
で言わずもがなの事を言わなければ
ならないのは、時々、このような事
を、感情にまかせて言ってしまう方
の話を職業柄聞かなければならな
いことがあつたからです。(実はかんべ
んしてほしいのです。)気持ちは分か
りますが、こんなふうに考えるのは
恥ずかしいことだから、やめましょ
う。私には父母がいない』とすね
る子供だったら気の毒だから、守つ
てあげなくちゃ』でしょうけれど、

私は老後は誰の世話にもなりませ
ん』とか、子供に迷惑をかけたく
ない』とか(姥捨て山ではありません)
では、一歩間違えるとヤンキーで不
良な爺さん婆さん』になつちやい
ます。無愛想な子供に悩んでそうい
う場合もあると思いますが、(そうい
う言葉が周りに迷惑かけているかも
しれないでしょう)水くさいじやあ
ないですか。どんなに譲歩しても、
生まれるときと死ぬときは周囲のお
世話になるのは人間誰でもお互い様

ですからこそ、周囲に対する(あり
がとうございます、よろしくね、と
いう)感謝の気持ち』をお互いにとき
どき表したいものです。なおかつ日
常、陰に陽にお世話になっている事
(おかげさま)を落ち着いて発見した
いものです。

だからこそ発見した分だけ家庭では
仲睦まじく、社会では、最初はきこ
ちなくとも気持ちいい協力的な人間
関係の雰囲気ははぐくまれる、とい
うものです。

話がそれました。さて、この五項目
の最後五番目が、先祖供養』に繋
がる事です。父母にたいして、私』
はこのようにすべきだと示されてい
ますが、その父母の気持ちを考える
と、父も母もそれぞれの父母(わたし
たちの四人の祖父、祖母』にたい
して、この五つは大事だという同じ
思いを持つていたはずだ、と想像が
出来てくるはず。かく言う私も
この気持ちをはぐくむべく修行中で
す。このことに肯ければ、血のつな
がりのご先祖は、直系・傍系問わず、

私』が知つている、知らない・会
つたこともないを問わず、『二人で
もいらつしやらなかつたら今の私は
存在しない』はもちろんのこと、今
の私にとって大事な先亡のお一人お
一人は、きつとその父母をこの五つ
の基準を柱にして、慕つていたでし
よう、という気持ちもお墓参りの時
に、脳裏をかすめ、ああ先祖の皆さ
んが、それぞれの父母に対して感謝
のお気持ちを大事になさつていたん
だなあ、と思えば、とても心の安

定になると思います。念のため、こ
のような先祖供養の気持ちが、幸福
には第一ですよということでもあり
ません。でもより穏やかな気持ちに
なるためには、時々起こすべき、欠か
せない気持ち、行為の一つです。(お
墓参りを毎日できる人はいないです
ので。)

このように、お釈迦様は、先祖のこ
とを思える人は、教養ある、立派で
良識ある社会人です、と示唆してい
ます。だから、一番目に父母に対し
ての心づかいの内容をお示しになつ
たのだと思います。

先祖供養は、世界中どこの民族の習
慣を調べても、何らかの形で行われ
ていると聞いています。祭りとか、
その他の習俗とかで。(文化人類学』
の分野になるのでしょうか)

我が国の場合は、最も分かり易く
表に現れているのが、『お墓』です。
明治以降、特に顕著になつてきたと
思われます。国民全員が名字を持ち、
一律の戸籍が整備され、はつきりと

〇〇家先祖の墓』という意味の表
示を墓石に刻めるようになったと推
測出来るからです。特に、近年、当
寺に墓地を取得した方方に申し上げ
ますが、現代日本の『お墓』は、**先
祖を祀るためのもの**です。只の、身
近な私たちだけが知つている、私
たちより先に逝つた人』だけを鎮魂
する設備ではありません。こんな言
葉を聞いたこともあります。私た
ちには先祖がいないので、まだお墓
は建てません』自分』には必ず父

母」があるはずなのに、父母」は
いません、と言っているようなもの
で、気がつきなすぎです。父母無
くして出生した人はいません。

先祖無くして、今の「自分」が
いるというのは成り立たない言葉
です。

このことをしっかりと押さえてお
きましょう。しかも、驚いてはいけ
ません、我が国の場合、恐らく、三
百代もさかのぼれば、確実に共通
の先祖の領域になってしまいそう
な事です。しかも、これは事実
です。

傍系も「先祖」ですから、〇〇家
先祖の墓」ではあまり意味がない
のでは、というのは感情です。「先
祖」という言葉がはいつてい
れば、(入っていないでもお墓参
りの時に思うだけで良いと思
いますが)「先祖」を紹介し
て、私たちはみな兄弟親類、とい
うとてもいい感じの気持ちにまで
望めます。このように思つて「南
無阿彌陀佛」を手向ければ最高
の先祖供養仏教です。

仏教で、佛法僧の三宝に帰依し
ましょう、気持ちの落ち着きど
ころを三宝に定めましょう、具
体的に言えば、阿彌陀様の浄土
です、といわれます。これで「
明るく(佛)、正しく(法)、仲
良く(僧)」出来ますし、具
体的に仏教の概念を知らない人
でも「明るく、正しく、仲良
く」しているならば、実は「
知らず知らずに仏教徒」
です。

参考書
○『戸伽羅越六方礼経』全体は、
分り易く納得の出来る解説が
あります。とても役立つもので
す。

成功する生き方〜シガール教 経」の実践」スリランカ上座 仏教長老アルボムツレ・スマ ナサーラ著

角川文庫

それほど長くないお経です。



紅葉

お知らせ【重要】その1

本堂のご本尊様が修復されます。

二年半前の大震災により、本尊阿
彌陀如来像の台座の一部が破損
しておりました。

業者さんによる応急措置により、
皆様の御参拝には影響の無い状
態のまま今まで経緯しましたが、
このたびは完全修復の為、修復
業者に託す事になりました。

当寺責任役員会では、平成二十
三年初夏(震災の年)に修復の
素案が上り、業者との打ち合わ
せがありましたが、修復には解
体作業がどうしても必要であり
、約一年間、仏師の方々の工
房に託して本堂安置が出来ない
状態を作らなくてはならないと
いう結論となり、御参拝の便
宜との調整が考慮されてお
りました。

かかる状況の下、平成二十三年
度は、県指定文化財である、禰
原康政侯

の墓」の修復事業が関係各位
のご指(導)ご協力のもと完了
し、二十四年度は、境内駐車
場の拡幅と植栽等の一部見直
し(完了はまだ先になります)
と不動堂仏具の修理、二十五
年度は新たに発見された石壁
の傾斜等の修復作業を行い、
平成二十六年(今年度)十一
月にご本尊の像の修復に取り
かかれる運びになりました。

修復期間一年間は、ご本堂
には仮本尊の小さめの阿彌陀
佛像が安置される事になり
ます。

従いまして、平成二十七年正
月修正会(しゅじょうえ)、三
月の春彼岸、八月の盆会、九
月の秋彼岸、並びに平日の本
堂ご参拝では、仮本尊」の
お像をご本尊として礼拝、お
祈りをして頂く事になります
ので、宜しくご賢慮の上、ご
協力をお願い申し上げます。

お知らせ【重要】その2

10月22日、23日に、

浄土宗指定布教」が館林地域
で開かれます。八年に一度
です。詳しくは、別紙を
ご覧下さい。浄土宗のご門
主様が、地域とお話をする
人を指定して、開かれる法
会です。

「お念仏のお話の会」として、
浄土宗開祖の法然上人の「
二枚起請文」のお話です。
普段聞かれない新鮮な
お話、大事なお話がある
と思います。当善導寺では、
十月二十三日 午後

二時に開かれます。一時間
程の予定です。

お聞きになる方は、三分
前の一時半頃に当善導寺
にお越し下さい。

茶菓のご用意をしてお
待ちしています。服装は
自由です。椅子席になり
ます。

北九州市から、はるば
る布教師様がいらつし
やるので、平日ですが、
お仕事等の無いお年を
召した健康な方を中心
に是非いらつしゃつて
下さい。

善導寺 一同

MEMO